

# 景観計画における地域資源図の特徴と表現\*

## Study on the characteristics on regional resource maps for landscape planning\*

川田武尊\*\*・佐々木葉\*\*\*

By Takeru KAWATA\*\*・Yoh SASAKI\*\*\*

### 1. はじめに

平成 15 年 7 月の美しい国づくり政策大綱、平成 16 年 6 月の景観法施行に伴い、景観に対する関心が高まる中、各自治体単位で地域の個性を生かした景観形成が行われている。景観法に基づく景観計画の数も増加し、平成 21 年 10 月 1 日時点でその策定数は 198 件（景観計画策定団体は 194 団体）、景観行政団体も 418 団体までに増加した。

また、まちづくりにおける地図の利用は広がってきており、長崎さるくマップなどの紙媒体のまち歩きマップを始め、インターネット書込地図型情報交流システム「カキコまっぷ」<sup>1) - 3)</sup> や駒込のまちづくりに関する情報や資料などを掲載した駒込まちづくり HP<sup>4)</sup>、地域の景観を HP 上に写真・説明付きで紹介した「彦根市景観マップ」など様々なデジタル地図の活用も見られる。

このように地域資源の保全・創出を目指したまちづくりが各地で行われる中、こうした地域資源への関心は景観計画においてもみられ、それは地域資源図に表れている。地域の資源を視覚的に表現した地域資源図は、場所と地域資源を強く結びつけ、地域の特徴を表す媒体であると同時に、その作成過程において住民の意識を育てる効果があると考えられる。また、地域資源図による景観計画の視覚化は新たな展開可能性を有している。

そこで本研究では、既存の景観計画198件の中で用いられている地域資源図に着目し、その現況把握と特色を明らかにすることを目的とする。具体的には描かれ方や記載された資源、作成過程、地域の特色との関係性などを把握する。これによって、今後、景観計画において地域資源図を作成する際の一助とする。

### 2. 研究の概要

#### (1) 本研究の位置づけ

地域資源の評価構造に着目した研究には、小規模町村を対象とし、地域住民の意識調査から地域資源の位置づけと評価構造を明らかにした研究<sup>5)</sup> や、過疎化が進行する中山間地域の活性化手法、一般の都市において地域の発展と環境の持続性のために検討されるべき課題として地域資源の活用を位置づけ、市民・市民グループ・専門家の3者を対象として、地域に内在する地域資源に対する価値認識の相違の実態を明らかにした研究<sup>6)</sup> などが見られた。

景観法に基づく景観計画に関する研究には、景観計画の策定プロセスに注目した研究<sup>7)</sup> や自主条例からの移行による景観形成制度の進展状況を評価した研究<sup>8)</sup>、届け出制度に着目した研究<sup>9) - 11)</sup>、眺望景観保全にかかわる方針や保全のための制限事項について、その特徴を調査・分析した研究<sup>12)</sup>、景観計画の内容から他制度との連動の必要性を指摘した研究<sup>13)</sup> などが見られた。

まちづくりに用いられる地図に関する研究には、大きな住宅地図を用いてまち歩きを疑似体験する「ガリバー地図」に関する研究<sup>14)</sup> や、前述した「カキコまっぷ」に関する研究<sup>1) 2)</sup> などが見られた。

本研究の特色は、景観法に基づく景観計画に用いられている地域資源図に着目し、その現況把握と特色を明らかにしようとした点にある。

#### (2) 地域資源図の定義

ある地域において人々が肯定的に捉える有形・無形の対象を地域資源とし、それを地図上に表現したものを地域資源図とする。ただし、ただ単に地域のゾーニングを示したものは除くものとする。

#### (3) 研究方法

以下の手順で研究を進める。

##### a) 研究対象の決定

平成 21 年 10 月 1 日時点で策定されている景観計画 182 件（都道府県除外）から地域資源図が描かれている景観計画 80 件を抽出する。

\*キーワード：計画手法論、市民参加、地域計画、景観

\*\*早稲田大学創造理工学研究科建設工学専攻

\*\*\*正員、博士（工学）、早稲田大学創造理工学部社会環境工学科  
（東京都新宿区大久保3-4-1 景観・デザイン研究室51号館  
16階、TEL:03-5286-8093、E-mail:yoh@waseda.jp）

b) 地域資源図の全体像の把握

80 件の資源図の作成過程、景観計画内における位置づけを把握する。作成過程は各自治体の HP や文献調査、ヒアリング調査によって明らかにする。

c) 地域資源図のタイプ分類

80 件の景観計画に存在する地域資源図の描かれ方に着目し、クラスター分析を行い、資源図を分類する。その結果から、各タイプの資源図の作成過程や記載されている資源、地域の特色との関係性などを考察する。

d) 地域資源図の事例考察

また、これらのタイプ分けされた地域資源図の中で、資源図作成の際に示唆に富むと思われる事例を選出し、より詳しい考察をする。

(3) 研究対象

国土交通省都市・地域整備局景観まちづくり HP の景観計画一覧に掲載されている景観計画（ここでいう景観計画には、自主条例に基づいて定められている「景観基本方針」や「景観基本計画」等を用いて置き換えられたものを含む）を対象とする。平成 21 年 10 月 1 日現在、全国で 198 件の景観計画が策定されている。このうち都道府県の計画に関しては、市町村の計画とスケールが異なるため除外し、182 件を対象とする。

182 件の景観計画の中、80 件に地域資源図が存在した。本研究では、この 80 件の地域資源図を対象とする。

なお、景観計画の策定年度と団体数に着目すると、地域資源図を含んだ景観計画の比率は平成 20 年まで横ばいだったが、平成 21 年にやや増加している（図 2. 1）。

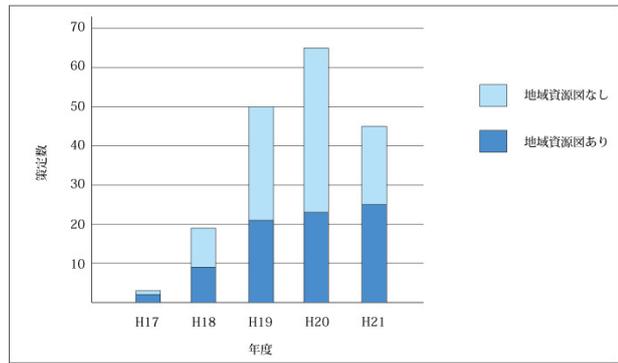


図 2. 1 年度別景観計画策定数 ※平成 21 年のデータは 10 月 1 日時点

3. 地域資源図の現況把握

(1) 地域資源図の表現の整理

80 件の景観計画に見られる地域資源図自体の描かれ方に着目し、現況を把握する。記載されている資源の数、単位面積あたりの資源の数、地図単位枚数あたりの資源の数、ゾーニング表現、地形情報、街路情報、凡例数をまとめ表にした（表 3. 1）。

単位面積あたりの資源数は、1 件の景観計画の中の地

域資源図で抽出されている資源の数を、資源図が描かれている箇所の面積で除したもので、資源の密度である。

ゾーニング表現は、資源図の中で何種類のゾーンによる区分けがなされているかを示す値で、これは資源図の表現における色彩の多様さとも関わってくる。

地形情報は、川と標高に注目し、その両方が地図から読み取れるものを 2、どちらか片方のみ読み取れるものを 1、読み取れないものを 0 とし、3 種に分けた。

街路情報は、国道・高速道路よりも詳細な街路があるものを 2、国道・高速道路などの主要な道路のみあるものを 1、街路の情報がないものを 0 とし、3 種に分けた。

表 3. 1 地域資源図の整理

書籍行政団体	策定年月日	地域資源図の名称	資源の数	単位面積あたりの資源数	資源図あたりの資源数	ゾーニング	地形	街路	凡例数
旭川市	H19.3.23	まち歩き分類図	27	0.04	27.0	7	1	1	15
札幌市	H20.3.29	景観特性	30	0.07	30.0	3	1	1	12
東川町	H18.11.17	東川町委員景観形成要素図	75	0.81	75.0	0	2	1	9
当別町	H21.3.18	当別町の景観資源	29	0.07	29.0	3	2	1	9
黒松内町	H21.4.1	黒松内町内図	22	0.06	22.0	0	2	1	3
滝川市	H18.1.1	景観形成方針	118	0.14	118.0	3	1	1	8
一帯市	H18.2.24	景観資源候補位置図	133	1.748	133.0	0	2	2	22
一帯市	H21.2.23	主な景観資源の状況(山、川、里、街、道・駅、歴史・文化)	195	0.16	308.0	0	1	1	16
遠軽市	H19.3.15	景観形成方針	55	0.07	55.0	3	1	1	7
北上市	H21.9.30	景観資源マップ	86	0.20	143.0	0	1	1	0
仙谷市	H21.3.17	名称なし	53	0.12	233.0	5	2	2	5
滝川市	H21.3.31	景観資源	105	0.12	15.0	0	2	2	12
水戸市	H20.12.24	重点的に景観形成を図る地区	55	0.25	11.0	5	0	2	8
つば市	H19.10.1	つば市の景観構造図	25	0.09	25.0	4	1	0	12
守谷市	H19.3.1	景観資源	43	1.21	43.0	3	1	2	0
宇都宮市	H19.9.29	景観資源	85	0.20	142.0	0	1	1	10
小山市	H19.10.25	景観形成基本方針	73	0.43	73.0	0	2	2	14
伊勢崎市	H19.3.1	資源分布図(自然系、歴史・文化系、都市系)、景観形成方針	379	2.72	379.0	2	2	2	36
高崎市	H21.4.1	景観形成方針	292	0.60	243.0	0	2	2	20
富岡市	H21.10.1	景観資源(自然的、都市的、歴史的)	92	0.75	30.7	3	1	1	21
川口市	H19.3.30	市域における景観形成方針	54	0.97	54.0	0	1	1	12
新宿区	H19.11.20	景観形成方針	91	7.09	203.0	10	2	2	30
川崎市	H18.4.6	自然景観・歴史的景観・まち歩みの基本要素、景観マップ	110	1.92	27.5	11	1	1	39
狭山市	H18.10.23	景観特性	93	2.15	18.6	9	2	1	17
市原市	H20.12.24	景観形成方針	29	0.08	29.0	0	1	1	0
浦安市	H21.8.1	景観形成の方針	106	6.13	21.2	0	2	2	26
世田谷区	H20.11.4	景観資源	271	9.63	51.9	0	1	1	23
新宿区	H19.3.1	景観特性	1169	63.58	15.3	34	2	2	184
足立区	H21.6.1	景観資源等の状況、市街地景観・自然景観・歴史・文化・まち歩きの景観の現状	167	3.14	16.7	8	1	2	25
港区	H21.8.11	景観形成方針	150	7.37	30.0	0	1	1	1
鎌倉市	H19.1.1	景観資源	86	2.17	86.0	4	1	1	11
茅ヶ崎市	H20.7.1	景観資源分布図	30	2.52	90.0	0	2	1	8
藤沢市	H20.8.4	景観形成の方針	398	17.92	308.0	0	1	1	15
大和市	H20.3.28	景観ネットワークの骨格図	88	3.25	88.0	0	1	0	11
湯河原町	H19.3.16	湯河原の景観資源	45	1.10	45.0	0	1	1	9
平塚市	H20.12.19	景観資源(自然系、眺望系、歴史系、都市系)、景観形成と提案	679	10.01	97.0	12	2	2	76
箱根町	H21.4.27	景観資源(地形、特徴的な街並み、建造物や並木、山、川、湖沼、開拓地、歴史・文化、眺望系)	127	1.37	31.8	7	2	1	23
高山村	H20.9.1	高山村景観資源分類図、眺望を活かした山村景観づくりのイメージ	185	1.88	92.5	2	2	1	30
千曲市	H21.7.13	景観資源分布図	388	3.24	123.3	0	2	2	33
佐久市	H21.3.31	景観資源分布図	139	0.33	139.0	5	2	1	15
新栄市	H20.3.12	景観形成の方針	126	0.23	126.0	11	2	2	24
上越市	H21.7.30	上越市景観資源の例	77	0.08	77.0	3	2	1	0
高岡市	H21.3.24	景観特性図	54	0.36	54.0	7	2	2	18
多摩市	H21.3.1	景観資源	65	0.54	49.0	0	2	1	16
各務原市	H18.3.31	重点商業地区(候補地)	30	0.34	30.0	0	2	1	0
静岡市	H20.4.1	景観要素図	827	0.59	137.8	5	2	1	50
富山市	H21.7.1	景観形成方針	85	0.35	21.3	3	2	2	27
藤原市	H20.2.27	景観形成の方針	75	0.08	18.5	0	2	1	16
犬山市	H20.4.1	主な景観要素	222	2.96	44.4	6	2	2	0
小浜町	H19.12.10	区域全体の景観形成方針	53	0.23	53.0	0	2	1	11
大津市	H19.3.31	景観資源	89	0.88	69.0	2	2	1	4
近江八幡市	H17.7.29	水辺景観計画区域の目標イメージ	4	0.26	4.0	3	2	2	4
近江八幡市	H19.8.21	まち歩きマップ	24	0.45	24.0	0	2	2	0
栗東市	H20.6.30	ふたば栗東の風景イメージ	28	0.03	28.0	4	2	1	0
津市	H17.12.27	景観形成の方針	89	0.12	49.5	0	2	2	15
津市	H20.3.31	景観形成の方針	79	2.17	79.0	0	0	1	12
吹田市	H21.3.3	まち歩きマップ、地域特性マップ	230	6.37	14.4	5	1	2	52
神戸市	H18.2.1	景観形成方針	36	0.17	86.0	3	2	1	16
堺市	H19.7.20	景観形成方針	12	0.10	12.0	1	1	1	1
鳥取市	H20.3.25	景観資源	100	0.13	11.1	11	1	1	12
松江市	H19.3.28	展望地の位置図	41	0.08	41.0	0	2	2	3
松江市	H20.3.28	景観形成方針	186	0.84	49.5	0	1	1	8
出雲市	H20.3.18	出雲市内の主要な景観資源	33	0.06	33.0	2	1	1	0
岡山市	H19.12.28	景観特性図	117	0.15	117.0	4	2	1	11
倉敷市	H21.3.30	景観形成方針	143	0.40	14.3	2	1	1	3
沼津市	H18.11.17	景観形成方針	32	0.18	10.4	0	1	1	14
宇都宮市	H19.2.1	宇都宮市の景観資源	89	0.31	89.0	5	1	1	8
上野市	H21.5.22	現地景観調査結果	71	0.65	71.0	3	2	1	12
宇和島市	H19.4.2	景観資源マップ	180	0.40	180.0	0	2	1	14
津市	H21.1.27	景観資源	121	1.59	44.5	2	1	2	14
津市	H20.1.31	景観資源のまとめ	130	0.27	130.0	6	2	1	43
武庫市	H20.6.2	武庫市の文化財、長崎街道	102	0.52	51.0	0	2	1	0
守口市	H21.2.23	景観形成の方針	200	0.79	33.3	3	2	1	20
山形市	H20.12.16	山形市景観基本構造分析図	7	0.02	7.0	8	2	1	20
堺市	H20.12.15	関川の景観形成地区位置図	7	0.10	7.0	0	0	0	0
大分市	H19.3.22	代表的な景観資源	26	0.05	26.0	0	1	1	1
宮崎市	H20.3.27	景観形成方針	83	0.50	83.0	11	2	1	22
宮崎市	H19.10.1	宮崎市の景観の骨格	19	0.03	19.0	0	1	1	5
瀬添市	H19.7.1	資源マップ	257	13.46	28.6	3	2	2	25
阪谷村	H21.4.1	景観構造図(画、軸、拠点)	22	0.63	7.3	0	2	1	3

(2) 地域資源図の作成過程

地域資源図の作成過程における住民参加の度合いを見る。地域資源調査(まちあるきなど)に住民の参加が見られたのは全80件中16件、また、住民参加のまちづくりワークショップ(以下WS)を行った事例は23件にとどまっている。これらの数を見ると、現段階で地域資源図作成過程における住民参加の度合いは小さいといえる。

### (3) 地域資源図の景観計画における位置づけ

地域資源図の景観計画における位置づけを示す(図 3. 1)。地域資源図が景観形成の基本方針や目標などと関連付けて掲載されているものは 36 件で、そのうち、事前協議や届け出フローに位置づけられているものは 3 件しか存在しない。また、計画作成のための作業マップとしての位置づけや景観形成の方針を示すことを目的とした地図も見られた。計画外では景観まちづくりポータルサイトなど各景観行政団体 HP 上で地域資源図を掲載しているものもある。これらの事から地域資源図を景観計画内に上手く位置づけ利用出来ている事例は少ないことが分かる。

地域資源図の数は増加傾向にあるが、その作成過程や作成後の有効利用という視点に立っているものは少ない。

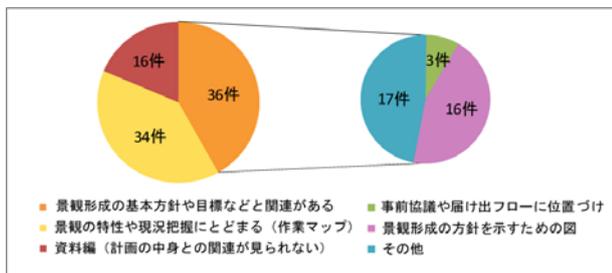


図 3. 1 地域資源図の景観計画内における位置づけ

## 4. 地域資源図のタイプ分類

### (1) クラスター分析

80 件の地域資源図をその表現方法(描かれ方)で分類するために、表 3. 1 をもとに、資源数、単位面積あたりの資源数、1 枚の資源図あたりの資源数、ゾーニング数、地形情報、街路情報、凡例数をデータとして、クラスター分析を行う。分析の結果、図 4. 1 のように 4 タイプに分類できた。

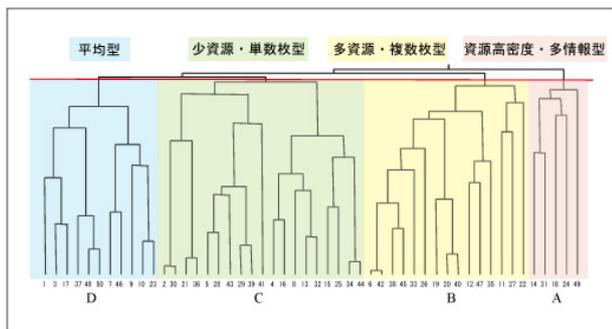


図 4. 1 クラスター分析樹形図

### (2) タイプ別考察

分類した 4 タイプをタイプ A (資源高密度・多情報型)、タイプ B (多資源・複数枚型)、タイプ C (少資源・単数枚型)、タイプ D (平均型) とし、各タイプの

特徴を考察する。なお、各タイプのイメージ図を図 4. 2 に、タイプごとの地図表現と人口データの平均を表 4. 1 に示す。

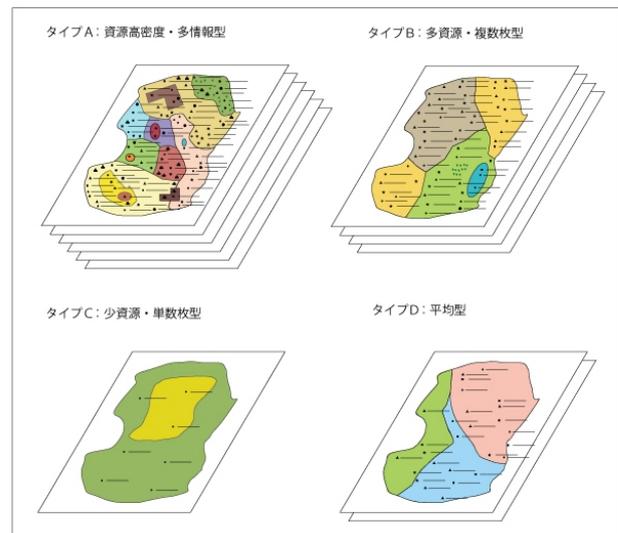


図 4. 2 資源図タイプイメージ図

表 4. 1 タイプごとの地図表現と人口データの平均

	資源の数	単位面積あたりの資源数	1資源図あたりの資源数	ゾーニング	地形	街路	凡例数	資源図枚数	面積(k㎡)	人口	人口密度
タイプA	810.2	9.9	114.9	13.2	2	1.8	73	20.4	112.80	511,449	4534
タイプB	232.1	3.6	59.9	3.4	1.5	1.5	21.2	6.9	247.02	240,813	756.8
タイプC	34.6	0.7	31.1	4.0	1.4	1.1	8.0	1.4	310.38	146,643	472.5
タイプD	99.9	1.5	65.3	3.5	1.7	1.2	14.4	2.8	381.50	305,180	800.0
全体	130.0	1.8	61.7	4.0	1.6	1.3	17.1	4.2	314.60	240,813	765.8

### a) タイプ A 資源高密度・多情報型

このタイプはわずか 5 件のみだが、記載されている資源数が他事例に比べて極端に多く、資源の密度も大きい値を示している。また、多彩な表現により地域の特徴を表現しているといえる。資源図が事前協議や届け出フローに位置づけられているものはすべてこのタイプに見られ、資源図を上手く利用している事例といえる。

#### ・記載されている資源

地域風景資産や界わい宣言といった条例に基づく住民の風景づくり活動のある場所(世田谷区)や四季の彩りとして季節ごとに楽しめる植物のある場所(柏市)、年中行事・イベント・スポーツ・レジャー等の景観(静岡市)など、必ずしもその地域にしかない特別な資源というわけではなく、人間の活動に関わるものが記載されていることが分かる。

#### ・資源図作成過程

タイプ A の資源図作成過程は、新宿区以外の 4 件は住民が資源調査や WS に参加しており、新宿区も 3 大学が資源調査を行い、その後住民説明会で意見を集めるなどの段階を踏んだものが見られる。例えば柏市景観資源ガイドマップは、「景観探検隊」という市民公募のまち歩きを行い、「市民に柏の景観を発見してもらおう」という方向性のもと、行政・市民・大学関係者らが協働で作成した(図 4. 3)。世田谷区でも、昭和 59 年から景

観百選や界限賞などの地域資源の発掘と普及啓発活動が行われ、資源図作成へとつながっている。他のタイプに比べ時間をかけて様々な主体が関わって作成されていることが分かる。

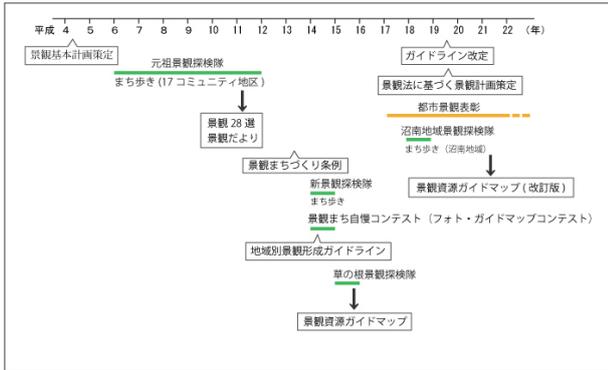


図4.3 柏市景観資源ガイドマップ作成過程

・地域の特徴

地域の特徴をあげると、人口がやや多い住居系市街地という点にある。このことから、前述した住民の参加が相対的に見て行きやすい環境であったといえ、逆に地域に主だった特徴がなかったからこそ、住民参加というプロセスを踏み、資源図を作成したともいえる。実際、「これといった景観づくりの中心がないので、景観の特徴を際立たせるために3つの独自の視点で見た(平塚市)」「うちは住宅地でなにか重要な資源などがあるというわけではないから、みんなで一緒に風景をつくっていくというスタンスでやっている(世田谷区)」というお話も伺え、資源図作成が資源の価値付けにつながったタイプといえる。いずれにしても、資源図自体には多くの情報が載り、地域のイメージを誘発するような地図になっている(図4.4)。



図4.4 世田谷区風景づくり資源図(世田谷地域)\*

b) タイプB 多資源・複数枚型

このタイプは、記載されている資源数は多いが、資源の密度については、約半数が1個/km<sup>2</sup>を切っており、高くはない。15件の地域資源図のうち、複数枚の資源図

を用いて資源を表現しているものは14件あり、地図の大きさ自体も、景観計画のページ半分程度のサイズ(文章の補助的役割)のものが多く、タイプAの資源図ほど、1枚1枚の情報量は多くない。

・記載されている資源

複数枚の資源図が存在しているタイプBには、資源図がエリア別に分けられているもの(〇〇地区、△△地域)と、資源の要素別に分けられているもの(歴史系資源、自然系資源、都市系資源など)の2通りがある(タイプBには、エリア別4件、要素別5件、エリア別+要素別5件)。特に、要素別の資源図はテーマがはっきりしているため、1枚1枚に記載されている資源は分かりやすくなっている。例えば一関市景観計画では、市の景観資源を「山」「川」「里」「街」「道・駅」「歴史・文化」と6つの要素に分けて表示している(図4.5)。そのため、資源図の凡例数も1枚につき2~4程度で単純なつくりになっている。



図4.5 一関市主要な景観資源の状況(道・駅の景観)\*

・資源図作成過程

このタイプでは、資源調査に住民が参加したものは4件のみで、職員による調査や既存資料をもとに作られたものが多い。例えば港区の資源図は、「港区街並み景観づくり作法集」「港区景観マスタープラン」等をもとに、現地調査を踏まえ、景観計画策定委員会における意見交換を経て作成された(図4.6)。

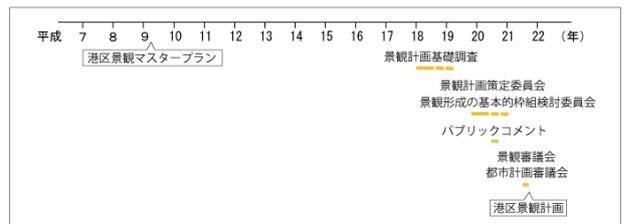


図4.6 港区資源図作成過程

・エリア別・要素別資源図

タイプBに限らず、エリア別に分けている資源図は、

土地利用や景観特性、地形などの地理的条件の違い、市町村合併などの理由によってエリアが分けられている。

また、資源の要素別に分けられているものは、景観形成基本方針に準じたもの（港区）や、直前の市町村合併に伴い、元の地域単位にこだわらず、全体の一体感を大事にしたい（一関市）などの理由が見られたが、何よりも資源を要素ごとに分けるとわかりやすいという理由が大半を占めた。

#### c) タイプC 少資源・単数枚型

28件の地域資源図がこのタイプとなった。これまでのタイプA・Bと対照的で、28件中25件の地域資源図が1枚で表現されており、記載されている資源の数は少ない。また、街路情報、凡例数も少なく、地図がより簡略化されていることが分かる。

##### ・資源図作成過程

作成過程を見ると、比較的単純なものが多い。遠野市は地図作成の際に、あまり複雑な仕様にせず、できるだけ概念で捉えうる簡単な地図づくりを念頭に置いていた（図4.7）。



図4.7 遠野市景観領域区分図\*

また、守谷市は「私の好きなもりや30景選定事業」で選ばれた資源を、守谷のイメージ色である緑色ベースの地図の上にそのままプロットして作成した。タイプCの資源図は資源図作成自体に力を入れていないものもあるが、あえて地図の情報を限定することで、地域イメージを簡単に伝える分かりやすい地図になっている。

##### ・地域の特徴

地域の特徴をみると、人口も少なく、北海道・東北地方の地域資源図全12件中5件がタイプCに見られることから、都会の住宅地よりも地方の農村地帯に多くみられるタイプであることが分かる。

#### d) タイプD 平均型

このタイプは、記載されている資源数はやや少ない

がそのほかの表現を見ても平均的タイプであることが分かる。複数枚の資源図があるが抽出した資源数がタイプBほど多くないものや、単数枚であるが資源数がタイプCほど少なくないものなど、タイプBとタイプCの中間に位置するタイプである。

##### ・資源図作成過程

作成過程を見ると「本当はもっと資源を載せたかったが、紙面の都合でこの量になった（秋田市）」、「とりあえず資源としてこんなものがあるということを示した（上越市）」「都市マスタープランでもともと描かれていたものに、ピックアップした資源を載せた（宇都宮市）」など、あえて情報を少なくしたものもあれば、たたき台という位置づけで載せたもの、以前の計画や景観選定事業を受け継いだものなど、様々な背景があった。

##### ・地域の特徴

資源図が描かれた地域に注目すると、北海道・東北地方の地域資源図全12件中6件がこのタイプDに見られた。しかし、人口・面積の値にはばらつきがある。

## 5. 地域資源図の事例考察

### (1) 事例の選定

今後、資源図作成の際に、示唆に富むと思われる事例を選定する。現時点でその地域の特徴にあった工夫などが見られる事例でタイプAから3事例、タイプB～Dで各2事例、計9事例を考察した。ここではタイプAから2事例紹介する。

### (2) 事例考察

#### a) 柏市景観資源ガイドマップ（タイプA）

公募で集まった住民（景観探検隊）のまち歩き、草の根型WSによって景観資源を抽出した。そのため資源として「住宅街の生垣」や「美しい庭のある家」など、一般的な住宅地に見られる生活環境が記載されており、資源の価値づけに成功した事例といえる。

地図には、写真や断面図、景観イメージ図（地域別景観形成ガイドラインと関連）などが用いられ、細かな凡例で柏の景観資源が表示されており、できる限り市民が場所を特定できるような工夫がなされている（図5.1）。「探検隊のおすすめ」として、今後育てていきたい景観資源の記載もあり、まちの景観の将来像を共有する道具ともなり得る。また、計画の届け出のフローの中に位置づけることで、建設行為の際、事前協議に利用されている。

この事例は、資源図の役割として、住民が見逃してしまいがちな地域資源を価値づけ、地域景観の現状、将来像を共有する道具としてのみならず、景観計画の適合審査において活用できることを示唆している。地図上に多

くの資源を載せることで、その価値は高まる。

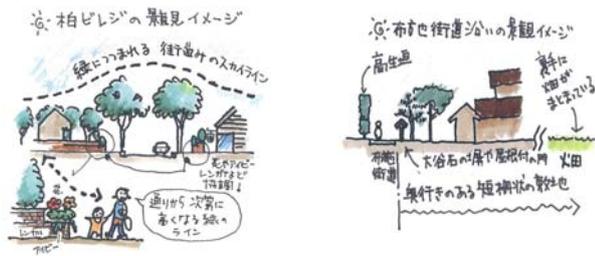


図5.1 柏市景観イメージ図\*

b) 世田谷区風景づくり資源図 (タイプ A)

柏市と同様、WS とまち歩きによって資源が抽出された。資源として、せたがや百景や世田谷区風景づくり条例に基づく住民の風景づくり活動が記載されており、それらが計画で定めた風景づくりの方針や基準との関連を示しながら表示されている。建設行為の届け出の際、「風景づくりの資源調査票 (資源図を参考に周囲に存在する資源や建設行為にあたり風景づくりの資源を活かすアイデアなどを記入)」の提出が義務づけられ、事業者は必ずこの資源図に目を通す仕組みになっている。

この事例は、条例に基づく住民主体の風景づくり活動を資源として記載することで、条例との連携方法を示しているだけでなく、自分の活動が地域資源として地図上に見える形に現れることで、住民の意識を育てる可能性をもつ。

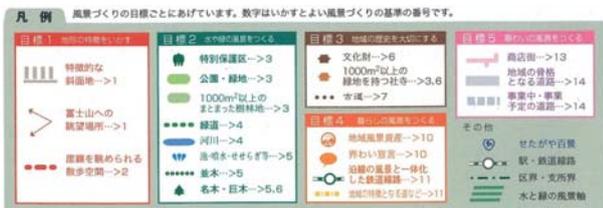


図5.2 世田谷区風景づくり資源図の凡例\*

6. まとめ

本研究は、景観法に基づく景観計画に用いられたすべての資源図の作成過程や景観計画における位置づけを把握し、タイプごとに、地図の描かれ方や記載された資源、作成過程、地域の特色との関係性を把握した。

景観法に基づく景観計画の策定数は増加傾向にあるが、地域資源図を景観計画内で有効に活かし、その作成過程で住民の参加、協議が行われている事例はまだ少ない。地図はあくまで補助的なものと考え、その活用を重視している自治体は非常に少なかった。

しかし、ここで紹介した柏市の例のように、地域資源図はその作成過程で住民の地域に対する意識を育てるという役割はもちろん、地域の現況把握や将来像の共有を可能にする道具となり、また、計画内にうまく位置づ

けることで、計画に基づく景観づくりに直接活かすことができる。今後は、景観計画と一帯となった地域固有景観づくりのツールとして、地域資源図作りが望まれ、そのための作成手法、表現方法を明らかにすることを考えたい。

参考文献・注

- 1) 真鍋陸太郎・小泉秀樹・大方潤一郎：「インターネット書きこみ地図型情報交流システム「カキコまっぷ」の課題と展開可能性」都市計画学会論文集, No. 38-3, pp. 235-240, 2003.
- 2) 真鍋陸太郎・小泉秀樹・大方潤一郎：「インターネット地図型掲示板での情報の収集・蓄積と議論の展開-三鷹市基本計画改定でのe コミュニティカルテの運用を事例に-」都市計画学会論文集, No. 40-3, pp85-90, 2005.
- 3) <http://upmoon.t.u-tokyo.ac.jp/kakikodocs/select.html>
- 4) <http://www.arigalab.arch.waseda.ac.jp/komagomeHP.html>
- 5) 田村博美・多胡進：「地域資源の評価に関する研究-地域の文脈を継承した街づくり計画のための基礎的研究-」建築学会計画系論文集, No. 541, pp. 153-159, 2001.
- 6) 秋田典子・佐土原聡：「地域住民に対する住民の評価構造に関する研究-福島県原町市での分析-」日本建築学会計画系論文集 No. 545, pp. 101-106, 2001.
- 7) 加瀬靖子・横内憲久・岡田智秀：「近江八幡市における景観法に基づく景観計画の策定プロセスと運用実態に関する研究」景観・デザイン研究論文集 No. 3, pp103-114, 2007.
- 8) 松井大輔・岡崎篤行：「自主条例から移行した法定景観計画における制度内容の進展状況と課題-全国における景観計画の運用実態に着目して-」都市計画学会論文集, No.44-3, pp. 7-12, 2009.
- 9) 佐藤貴彦・堀裕典・小泉秀樹・大方潤一郎：「景観法化の建築物規制の運用実態と課題-景観計画に基づく届け出制度に着目して-」都市計画学会都市計画論文集, No.43-3, 217-222, 2008.
- 10) 室田昌子：「景観法に基づく景観計画における建築物等の景観形成基準に関する考察-神奈川県景観行政団体を対象として-」都市計画学会論文集, No.43-3, pp.655-660, 2008.
- 11) 大澤昭彦：「景観計画による高さ制限の現状と課題」土地総合研究, Vol.15, No4, pp90-110.
- 12) 横山公一・面川英確・天野光一：「景観計画における眺望景観に関する基礎的研究」, 景観・デザイン研究論文集 No.5, 2009.
- 13) 小浦久子：「景観法における景観計画の構成と運用実態に関する研究-初期に策定された景観計画を事例として-」都市計画学会論文集, No.43.3, pp.211-216, 2008.
- 14) 中村昌広：「まちづくりへの参加の新しい局面とその道具としての『ガリバー地図』」都市計画学会学術研究論文集 No.24, pp.511-516, 1989.
- 15) 柏市都市緑政部都市計画課：「柏市景観だより vol.1-5」1995-1999.
- 16) 社団法人日本建築学会：「生活景 身近な景観価値の発見とまちづくり」pp175-184, 247-262, 学芸出版社
- 17) 岡寄均：「資源図を活かした風景づくり計画」季刊まちづくり 12, pp.47-49, 学芸出版社
- 18) 国土交通省都市・地域整備局都市計画課景観室, 各景観行政団体 HP

\*当該図は各景観行政団体のHPや紙資料から引用